令和３年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	1	学 校 名	静岡県立下田高等学校（分校）	校 長 名	石田　金也

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	すべてに優先する安心安全な学校づくり	○登下校時の交通事故０件。 ○重大事態発生０件。 ○いじめアンケート（年３回）。	○登下校時の交通事故６件 ○重大事態発生０件 ○いじめアンケート年３回実施した。	A	○自転車マナーの向上を図りたい。 ○教員間で情報共有し迅速な対応し、重大な問題に発展することを防ぐことができた。 ○いじめアンケートやいじめに関する授業を実施し、予防に取り組んだ。
		○防災訓練（年２回）。 ○外部講師による防災教育（年１回）。	○防災訓練（地震想定１回、火災想定１回）を実施した。 ○外部講師による防災教育は未実施。	B	○避難経路、職員の避難誘導の確認を行った。発災時の対応ができるよう次年度も実施する。 ○町と連携した防災教育を今後、検討実施する。
イ	**基本的生活習慣を確立させ、自立心を持った生徒を育てる生活指導の充実**	○毎朝の登校指導。 ○職員室入室指導。	○登校指導、職員室入室指導実施した。	A	○登校指導、職員室入室指導を通じて、挨拶や言葉遣いなど適切な対応ができる生徒が増えた。
		○LHR 等でのコミュニケーション能力向上プログラム（年５回以上）。	○計画通り実施できた。	A	○グループエンカウンターなどのプログラムを実施し、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。
		○授業を大切にし、学習習慣を身につけ、提出物の期限を遵守する生徒 75%以上。 ○長欠･不登校０、出席率 98%以上。 ○遅刻者数、前年度比 50%減 ○マナー・モラル向上（言葉遣い、服装・礼節等）指導（年５回以上）。 ○定期テスト前の生活時間帯調査（年５回）。	○提出物の期限を遵守する生徒 75%以上達成した。 ○長欠生徒１名、出席率は 97.8%。 ○遅刻者数、前年比 50%減未達成。 ○計画通り実施できた。 ○計画通り実施できた。	A	○各科目担当の丁寧な指導、担任との連携により提出物の期限を遵守する生徒が増加している。 ○長欠の生徒が１名いたが、学年・担任の迅速かつ適切な指導で登校ができるようになった。 ○遅刻者数は年々増加傾向で数分の遅刻が目立つ。家庭との連携、生徒への声掛けを粘り強く行っていく必要がある。 ○服装などの身だしなみに関して意識の向上を図ることができた。今後も服装や言葉遣い、礼節に関する指導を継続していく必要がある。 ○次年度も継続実施。
		○読書会（年１回）。 ○図書室機能向上と貸出数 80 冊。	○読書会を 11 月に開催した。 ○書籍のビニール被覆を推進。貸出数 123 冊。	A	○有志による読書会を実施できたので、次年度も開催したい。 ○除籍図書の廃棄を次年度に向けて進めたい。

ウ	**地域の特性を生かし、農業の多面性を活用した学習の展開**	○地域機関や人材との連携 20 回以上。	○各科目４～５回の連携を実施。	A	○各科目で地域連携を意識した学習活動を実践。今後は活動の外部評価を実施し、指導に反映させたい。
		○県大会（意見・プロジェクト）各部門出場（３部門)、内入賞（２件以上)。	○3 年生在籍 15 人であったが各３部門出場できた。入賞は意見１件であった。	A	○生徒数減少のなかで、３部門出場を維持できたことは大きな成果である。今後は、計画的な研究活動を実践することにより、研究精度等を上げ、入賞を目指したい。
		○ＳＤＧｓの趣旨を踏まえた、地域を重点視野に入れた農業学習の実施。	○プロジェクト学習でＳＤＧｓを取り入れた学習を実施。「ふるさと貢献賞」等のコンテストでも優秀な成績を収めた。	A	○地域連携を通して、必然的にＳＤＧｓの趣旨を取り入れることができた。今後はさらに分校らしさのあるＳＤＧｓの学習活動を展開したい。
		○ラインズドリルを授業内で有効に活用し、継続的に取り組む生徒 60%以上。	○授業内で活用することはできたが、継続的に取り組ませることはできなかった。	B	○今年度導入のＩＣＴ教材による学び直しを授業の一部の時間に取り入れて実施したが、操作性や教科の特性などから、継続的に取り組ませることが難しい部分があった。
		○令和４年度入学生シラバス年内完成。 ○令和４年度教育課程の試験施行を組み入れた授業の実施。 ○基礎力テスト後の分析対応検討。 ○授業公開への各教員参加（２回以上)。	○令和 4 年度入学生シラバス作成状況年内 20%程度。 ○令和４年度入学生の教育課程の試験施行としての授業展開はほぼ未実施。 ○生徒の実情について、全職員で共有。 ○２回以上参加した教員３人（11 人中）	B	○教科書採択から内容理解、指導方法を思考する期間が短く、完成できなかった。年度内完成を達成させる。 ○各科目の内容理解、指導方法を思考する期間が短く、完成、実施ができなかった。 ○次年度も継続実施。 ○相互の授業を見学できる様、改善を図って行く。今後は、南伊豆中との相互見学も進めて行く。
エ	積極的な地域貢献と情報発信	○地域防災訓練参加率（50%以上)。	○地域防災参加率 46%。	B	○コロナ禍であったが、多くの生徒が参加した。今後も、地域防災の担い手となるよう、積極的な参加を促す。
		○「総合的な探究の時間」で地域と関わる時間（各学年で２時間以上)。 ○生徒の地域交流機会（１日体験ナース等）の情報提供。 ○生徒の主体的な地域貢献活動への参加（１回以上)。	○各学年、地域と関わる時間 2 時間以上達成。 ○全学年、「総合的な探究の時間」に地域と交流する時間を持つことができた。 ○ビジネスセミナー等、交流機会の情報を提供。	A	○目標を上回る時間数で地域と関わることができた。今後は各学年で目標や目的を明確にし、より洗練された学習活動としていく必要がある。 ○交流については一定の成果があったと思われる。３年間を見据えて、各学年の実情に即した交流の仕方を、検討していきたい。 ○地域交流の機会に参加する生徒が少なく、生徒の意識を育てていくことが課題である。
		○分校だよりの発行（月１回)。 ○ホームページの更新（年 40 回以	○分校だよりを月 1 回発行した。 ○ホームページを 95 回以上更新した。	A	○分校だよりは、生徒の活動を多くとりいれた掲載内容の充実、ホームページによる情報発信を継続して行う。

		上)。	○授業を中心に生徒の地域活動を報道機関に提供し、地域に発信した。		○報道機関への情報発信は継続性が重要、過度の業務負担につながらないよう内容の精選が必要である。
オ	個に応じた丁寧な進路指導	○役場、地域企業等と連携した職場見学、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、進路ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ等の実施。 ○年度末までに進路の方向性を決める生徒（１年 60%、２年 80%、３年 100%)。	○計画通り実施。特に２年生のｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟは、役場や地域との連携を深め、事後のﾜｰｸｼｮｯﾌﾟも行うことができた。 ○概ね目標を達成した。	A	○２年生のｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟは生徒が進路を考える上で、有意義なものとなった。遠方の企業に行くときの交通と、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ受け入れ企業の開拓が課題である。 ○新２、３年生については、より具体的な目標を持てるように指導していきたい。
		○スクールカウンセラーによる相談とフィードバック（毎月)。 ○毎学期の面談、生徒情報の教員間共有。 ○学びの基礎診断診断（年１回)、をラインズドリル診断と並行実施し３年間の学力を分析。	○スクールカウンセラーによる相談とフィードバックを毎月行うことができた。 ○学期ごとの面談、生徒情報の教員間共有した。 ○学びの基礎診断から客観的に生徒の学力をはかることができた。	A	○スクールカウンセラー活用率 100%。相談内容を保健課会議で共有できた。次年度も継続実施する。 ○生徒情報を朝の打ち合わせ、職員会議等で共有し、個に応じた適切な指導ができた。 ○実施初年度であり、3 年間の学力分析には至っていない。よりよい基礎学力向上のためのツールを採択し、分析を進めたい。
		○法人会、企業等と連携した、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、職場見学、面接練習の実施。	○計画通りに実施した。特に３年生の面接練習は、法人会の他、役場とも連携して実施できた。	A	○今年度初めて実施した３年生９月の面接練習は、生徒の意識を高めることができた。他の進路行事とともに、継続して実施していきたい。
カ	学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進	○授業改善・観点別評価の研修（年 2 回)。 ○チーム研修（年３回以上)。 ○研修通信発行（週２回)。	○観点別評価の研修を年 2 回（総研修４回）実施した。 ○チーム研修 4 回実施した。 ○研修通信週 2 回発行した。	A	○教員による実践報告会で課題を共有した。今後、実施年度を迎える準備をしていく。 ○ハイパーＱＵ分析、授業改善のための学習評価、授業のユニバーサルデザイン化、学級づくり・授業づくり等校内研修を実施し、資質向上に努めた。 ○チーム研修を定期的に行うことで、現状理解、意識改善につなげることができた。今後は内容を精査しながらも継続的に実施していく必要がある。
キ	働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	○夏季休暇以外の年休３日以上の取得者（90%以上)。	○夏季休暇以外の年休３日以上の取得者（100%)。	A	○割振なども含めて、休暇を取得しやすい雰囲気であった。今後、会議等の時間配分に工夫していく。
		○各分掌による行事等の見直し実施。 ○分掌ロッカーに	○本校と関係している行事については見直しが難しかった。 ○ファイル管理につ	B	○分掌会議の時間を確保して行事の見直しを実施する。 ○未整備の分掌のファイル管理を引

		よるファイル管理。	いては概ね実施できた。		き続き進める。
		○充実改善要望（実現５件）。	○充実改善要望を６件実現できた。	A	○今年度実現できなかったものは、現在進行形も含め、次年度への継続実現を目指す。
ク	教育目標達成のための適切な財務執行	○経営予算 12 月末の執行率（60%以上）。 ○小規模修繕費 12 月末の執行率（60%以上）。 ○施設設備の不備による事故（０件）。 ○情報流出（０件）。	○早めの契約を進め、需用費の執行率は60%を達成した。 ○修繕は件数が多かったため 10 月に令達額を全て執行し、一部経営予算で修繕を実施した。 ○設備に起因する事故はなかった。 ○情報流出はパソコンを処分時に HDD を破壊し情報流出しないようにした。	B	○経営予算は各四半期に修正を行い有効に執行した。令和４年度の経営予算を編成する際は要望を取りまとめ、経営計画にそって編成する。 ○早急に対応が必要な件について対応ができた。老朽化が進んでいる設備、建具の傷みが進んでいるので計画的に修繕していく必要がある。 ○事故が予想される件は早急に対応する。 ○パソコン処分では十分対策を実施。教職員に対しての不審な業者からの電話が多く、その対応に気を付ける。